

横田ストライダーズ 第37回フロストバイトロードレース Yokota Striders hosted the 37th Annual Frostbite Run

January 17, 2018

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

1月14日、凍えるような寒い朝にもかかわらず、横田基地の道路には、第37回フロストバイトロードレースのハーフ、5km、2kmの種目に集う約1万2000人が押し寄せた。

当レースの人気は高まってきており、ハーフマラソンだけで8,000人以上、5kmで3,000人、2kmファミリー・レースで700人の親子のランナーが、基地南地区周辺を駆け抜けた。

横田ストライダーズの代表ボー・ベアゼイ氏は「今日、この大会に参加したランニング愛好家たちと楽しみを分かち合えることを嬉しく思う。今年の大会はいろいろと思考を変えた。全ての参加者が、走りながら体験を楽しんで欲しい」と語った。

朝、2kmキッズランと親子のファミリー・レースが行われた後、5km、ハーフ種目が行われた。

「人生で初めて10マイル(約16km)以上走った」とハーフを走った第36空輸中隊C-130Jパイロットのノア・パリシア大尉は話す。

パリシア大尉にとって、日本のランナーたちと走ったのも、初めての経験だった。

「日本のランナーたちは、とてもフレンドリーだった。コース上で、多くの人が他人を思いやっていた。ランナー同士で、風のある時に皆より前を走り、他のランナーのために風を遮るのを交代し合っていた。風を遮るランナーを交代しながら、一体となっていた」とパリシア大尉は語る。

パリシア大尉は、このフロストバイトロードレースに参加した軍関係者の一人だった。彼は、ハーフで1時間18分57秒でゴールし、上位30位に入った。

「この大会で、ランナーたちは体を動かしながら楽しい時間を過ごすことができた。素晴らしいレースで、終始楽しんで走ることができた」とパリシア大尉はレースを振り返った。



ハーフマラソンを走るランナーたち。

横田ストライダーズによると、同フロストバイトロードレースは全国ランニング大会100選に選定されている。



ハーフマラソンのフィニッシュ・ラインをめざして走る第36空輸中隊C-130Jパイロットのノア・パリシア大尉。

今年の大会には、約1万2000人のランナーやゲストが参加し、友好と体力の促進を図った。